自己紹介

このページに表示されているのは、藤原真一という教員のコラムです。藤原真一は、茨城キリスト教大学文学部児童教育学科の教員で、2010年4月26日に就任しました。彼は、日本社会の中における教育の現状を、特に「学校の言葉は生きていく上の指針となる」ことを指摘しています。

藤原真一は、大学の施設を、貢献者としての役割を果たすことが必要だと考えています。特に、社会人成長する場とし、関わり合う時間で、社会人を育てる機会を提供することを目指しています。藤原真一は、教職員を含む多くの学生たちと出会います。その度に学び、学んだことを学問を通じて心に録えています。

藤原真一は、若者に貢献するという夢を持っています。特に、朝の授業はほとんどの場合、学生に影響を与える重要な時間を提供しています。藤原真一は、その授業を大切にし、学生たちの学習を支援しています。

藤原真一は、「学生の言葉は生活の上の指針となる」との信念を持っており、教員としての使命を重んじています。彼は、学生たちの教育を支えるために、多くの時間と努力を捧げています。